乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和３年度　第３回人材確保育成部会　会議録

日時　令和３年11月９日（火）　13：30～14:50

場所　乙訓保健所

出席者　12名
乙訓障がい者基幹相談支援センター、乙訓ひまわり園地域連携室、向日市社協障がい者地域生活支援センター、こらぼねっと京都、大山崎町社会福祉協議会、乙訓若竹苑、障がい福祉センターあらぐさ、障害者支援施設晨光苑、乙訓の里、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課

欠席者　２名
長岡京市商工会、大山崎町福祉課

事務局　２名

傍聴者　２名

配布資料
・新任職員連続講座アンケートのまとめ
・チラシ企画チームから
・乙訓ひまわり園のインターンシッププログラム
・FUKUSHI 就職フェア（11／14）チラシ

議事の流れ

１　新任職員連続講座の報告と次年度に向けて

部会長　・アンケートまとめ資料を見ながら進めて行きたい。
・１回目は、「医療のサービスにはわかっていないことが多かったがよくわかった。」というご意見が多かった。訪問看護といっしょにヘルパーに入る方もあり、これからもしっかり連携を取りたいとのことだった。
・２回目は、児童の事業所の方の出席が多く、「将来をどのようにイメージしていくのかを学校とも共有しながら放デイでも支援していきたい、将来の選択肢を増やすことができるサポートをしていかなければいけない。」などのコメントがあった。講師の木田先生は、生徒自身の納得と選択を大切にし、失敗体験も次にいかしていく指導されているとのことだった。学校内で、若い先生との共通認識を作っていくのも大変だというリアルな悩みもお聞きした。

・3回目は、この圏域には児童発達センターがないので、その機能を詳しく教えていただけてよかった。講師の則枝さんからもセンターへの見学や情報共有をしていきたいとお話をいただいた。

・最後に今後とりあげてほしいテーマについてアンケート結果をまとめたが、多岐にわたっている。他事業所へ見学会があればいいというご意見はその通りだと思うのでコロナが落ち着けば人の交流も含めて企画したいと思う。医療的ケア、こどもの発達段階に関する連続講座の希望もあったが、これらは他に担当している機関もあるのでそちらへ伝えていきたい。

・この部会としては、乙訓地域資源を知る機会として継続していければと思う。

副部会長・今日の午前中、運営委員会で講座の報告をした。運営委員から、スキルアップを図っていく上で定期的なこういった機会をもつことは非常に必要なので継続してほしいという意見をいただいた。

事務局　・今回、感染症防止のためオンライン開催としたので、20 名の定員を超えても受け入れることができたのは良かった。次年度の開催形式については、ウィズコロナと言われているが、部会として協議して進めてはどうか。

部会長　・双方向でのやりとりはオンラインでは難しいと思ったが、質問はよく出ていた。

委員　・参加者の年齢層や職歴はどうだったかデータなどあるだろうか。

事務局　・年齢層は把握していない。新任５年目を目途にと案内したが、新任５年以上でもいいかという問い合わせはたくさんいただいた。どうぞと返している。「５年の目途」を今後付けた方がいいのかどうか。それとも「地域資源を知る機会」として職員連続講座とした方がいいのか。

委員　・ニーズがどこにあるのか聞きたかった。

部会長　・もともと、「乙訓で働く上で乙訓の障がい福祉の歴史などを知って、ここでがんばってやっていこう」と思ってもらえるように企画してきている。ベテランさんが来られて、「それは知っている」と言われても困るので新任と入れておいた方がいいと思う。何歳でこの業界に入っておられるかはわからないので年齢は問わない。

委員　・講座のデータを公開できると出席していない人も見られるのではないかと思うのだが、その方法はあるだろうか。

事務局　・オンライン開催だったので録画はできている。受講者にはパワーポイントの資料を送っているのでそれは公開可能かと思う。録画を公開してもずっと見続けるのは大変ではないか。

委員　・今後共有してもいいかと思った。

部会長　・今回の録画は記録用で配信を前提としていない。今後、ニーズがあれば参加者の承諾を得た上で可能かと思う。

委員　・オンライン開催は参加しやすかったと受講した職員は言っていた。

・開始時刻が４時であることに関してはどうだったか。私の事業所は調整が必要だったので１人しか参加できなかった。

委員　・保育所のお迎えと重なっている職員もいた。

部会長　・４時からは利用者の送迎とかぶるので４時半からの方が参加しやすいが、そうすると終わる時間が遅くなる。

委員　・最大公約数で出やすい時間を設定するといい。

部会長　・当初から開始時刻は常に悩んでいる。

委員　・放デイは出にくい時間になる。

委員　・日中一時支援があるので４時からは出にくい。

・講演を事前に録画しておいて自由な時間に受講できるといいという意見も出ていた。アーカイブスにして残すこともできればいいが、運営方法には課題が山積だとも思う。

部会長　・本来は一同に会して横のつながりづくりも研修の意図だと思うので、いろいろな可能性も含めて次年度の課題としたい。

２　チラシ企画について

・動画作成～QR コード作成までの手順（裏面図案）

部会長　・担当の委員から報告をお願いしたい。

委員　・お手元の資料を見てほしい。２回ほどチラシ企画チームで集まってレイアウトを決めた。

・まずは何を伝えたいかのキャッチフレーズ、コンセプトを考えた。「ここであなたと笑う幸せ」とした。

※資料「第２回チラシ企画チーム（人材確保・育成部会）」を読み上げながら説明

部会長　・乙訓のインターンシップのチラシを作成して実際に使うのは２月の商工会のイベントになる。

事務局　・商工会は明日ハローワークと打ち合わせされて、２月の開催の有無についても話し合われるそうだ。決定しだい連絡がいただける。

部会長　・そのイベントがなくても、京都府の就職フェアなどでチラシを配布したい。

・キャッチコピーの確認（表面図案）

部会長　・部会としてこのキャッチコピーで確認してもいいでしょうか。

委員　・すごくいいと思う。

部会長　・京都府のインターンシップのチラシを本日配布している。乙訓のチラシにも QR コードを載せて各事業所の紹介やインターンシップについて見られるようにしたい。

・動画の作成を進めて行くために、詳しい委員にマニュアルを作っていただき資料としてお渡ししている。

委員　・質問があれば個別に問い合わせてほしい。１月中には完成させて QR コードを自立支援協議会の事務局に送っていただきたい。

委員　・この部会の委員はみなさん障がい者対象の事業所で、私のところだけが障がい児が中心となるのだが、どの視点で動画を作ればいいか。就労移行支援もしているのでそちらを打ち出した方がいいか。

部会長　・子どもの事業をしていると出してもらった方が、圏域のインターンシップとして幅広く展開していることがアピールできる。子どもに携わりたい学生もいるので１か所だと殺到して受け入れが厳しくなるとまた申し訳ない。

・法人ごとにいろんな事業をしているが全部を紹介することは難しい。法人の見せたいところを打ち出してもらうのが一番だと思う。

事務局　・今年度のチラシは、試行でこの部会委員の事業所だけの掲載となる。インターンシップが殺到

すれば他の事業所にわけることもできるので、ぜひ子どもを打ち出してほしい。

委員　・私の事業所も放デイを実施している。

部会長　・子ども対象となるとポニーもだが、どうだろうか。

委員　・ゆくゆくは取り組んでいけるといいが、まだハードルが高い。

事務局　・チラシに入れ込むイラスト部分は、全くの手書きではなく、ペイントソフトなどを使いデータでいただいた方がいいと思う。

委員　・地図を担当しているが、手書きで作成する予定なのだがどうだろうか。

委員　・手書きのものをスキャンすれば電子化できる。

事務局　・表面は、人選をして、コメントを書いたものを持って写真を撮ってもらうことになる。実際的に動き出してほしい。

委員　・誰にしようか、インターンシップはどこまでできるか、と考えている。

委員　・私の法人は事業所が４か所あるのだが、全部載せてもいいだろうか。

部会長　・構わない。動画も４か所分作られるのか。

委員　・そのようにお願いしている。

委員　・表面の人選に関してイメージはあるだろうか。

委員　・縛りはない。キャッチコピーにあわせて、華やかな感じで「笑顔」がいい人がいい。

委員　・写真はデジタル式に切り抜くのか。どういったところを背景にすればいいだろうか。ベースカラーが淡い色だと白い紙を持つとわかりにくくなる。

委員　・表面を担当しているが、難しいことはできないと思うので簡単な感じでさせていただく。

部会長　・できるだけ背景は無地で撮影していただくということで、試行なので。

・次回の部会で最終案を確認し、印刷したい。

3　インターンシッププログラムについて

・例示：乙訓ひまわり園

部会長　・資料を見ながら説明したい。京都府のインターンシップを私の事業所がする時に、学生向けの事前説明をオンラインでするために作ったものである。

・コロナ禍で直接事業所に行ってインターンシップができない状況になり、バーチャル方式のインターンシップができた。リモートで見学をしたり事業所の法人説明を聞いたり、利用者とオンラインでつながってコミュニケーションをとる。リアル&バーチャルは見学だけは現地で行うが支援の体験はできないもの。この２種類で京都府のインターンシップを進めている。その掛け合わせで４タイプのインターンシップの設定をした。

・近年、企業では求職者の満足度をあげるために、インターンシップに来ている学生等に課題を設定しているパターンが多い。福祉でもそれを取り入れようということになった。

※資料「バーチャル方式　リアル&バーチャル方式でイメージできること」を読み上げ説明

・参加者の希望を聞いてオーダーメイドのインターンシップを提供できると「よくしてもらった」という印象をもってもらえるのでそういう要素を入れることはポイントだと思う。

・質問等あればお願いしたい。

委員　・学生は何年生か。

部会長　・就活前の低回生になる。短大１回生、大学２回生。

委員　・学生は意欲的な方だったか。入職されたか。

部会長　・就職につながった人はいなかったが種はまけたと思う。

委員　・私の法人内の特養だけでインターンシップをしているが、バーチャル型で、ナビサイトと相談してつくった。一方的になってしまい、法人の概要、施設見学はビデオに撮ったものを見てもらい、職員との座談会、仕事の理解を深めてもらうために認知症についての話を交えたものである。利用者との関わりがウエイトとしては大きいのだが、実施が難しい。障がい分野でも考えているが講義的になってしまうのでどうしようかとなかなか進まない状況である。

部会長　・効果的なプログラムは何だろうか。

委員　・参加者にアンケートを取ると現場職員との座談会が喜んでもらえているようだ。仕事をする上でのイメージがしやすいようだ。

部会長　・実習と違って、自分が職員になって働き続けられるかを見ている。

委員　・休みの過ごし方や給料など。５年 10 年後、どうなっているか。世間的に給料が低いイメージだがそうでもないことを知ってもらえる。

委員　・インターンシップはやっているが、応募がないのでどうすればいいか。

部会長　・それこそ、今回の企画がうまくいくといいと思う。

委員　・1 回だけインターンシップを受けたことがあるが、どういう仕組みで来られたのかわからない。職員として採用したが、何か資格を取ってくるようなところからだったのか。

部会長　・京都府も考えてくれていて、いろんなルートがある。

委員　・資格取得費用を法人と府で半々でもつようなものだった。サポートセンターのようなところでマッチングしてくれたのだろうか。

委員　・職員を採用したいと手をあげておくとマッチングしてくれるところだと思う。

委員　・アルバイト感覚で現場の雰囲気を体験してもらって就職につながった。

部会長　・京都府のインターンシップは、事務局である人材サポートセンターがマッチングをやってくれる。この部会でもインターンシップを受けるにあたって事務局機能が必要になってくる。

４　人材確保における今後の体制（事務局）について

部会長　・今後、どこが事務局を担うか。中立的な機関がいいと思うが、みなさんにご意見をいただきたい。どこかの事業所が事務局となるとどうしても不公平感が生じるように思う。自分の事業所に学生を引っ張りたいという思いが働いたり、そうでなくても周囲からそう見えたりするのではないか。まずは学生の窓口になって事業所につなぐ役割になる。昨年度の部会準備会では前 GM ともそういう機能は中立な乙福が担うべきではないかという話になっていた。みなさんがそれでいいということであれば改めて乙福に依頼したい。どうだろうか。

・一旦、乙福に委ねて返答をまちたい。

５　その他

事務局　・参考資料で 11 月 14 日の福祉フェアのチラシを配布している。また３月にもある。

・商工会議所のフェアが２月にあればそこにもチラシをおいてインターンシップにつながって

くるのではと思う。各事業所はインターンシップをどのように受けるかも話をしておいていただきたい。

部会長　・今度の日曜日に福祉就職フェアが産業会館である。乙訓からもたくさん参加する。京都府南部３圏域対象のフェアだが今まで会場は城陽だった。乙訓圏域から出展しても城陽でのブースでは誰もきてくれなかった。２年前にバンビオでやると今度は城陽の方が来られなくなった。それなら京都市内でやろうということになった。南丹圏域や山城圏域からもアクセスがいい。京都市内で今回はじめてやるので集客を期待している。盛り上げていきたいので参加される事業所はよろしくお願いしたい。

副部会長・今年度のまとめについてそろそろ視野に入れる時期になっている。今年度立ち上がった部会で、大きな柱立てを推進していくのが今の目標だが、次年度は成果物を踏まえてどうしていくか。年度途中で大きな方向転換は難しい。だいたいの方向性は見えているが、みなさんで次回までに軌道修正が必要かどうかなど頭に入れて事業を進めていただきたい。最終私がまとめることになるのでよろしくお願いしたい。

部会長　・次回の予定は、１月にしたいので調整したい。

・今日の議題についてはすべて終了した。ご苦労様でした。

事務局　・先ほどの乙福への事務局依頼について、当面は私が集約をしていくが、乙福内で検討していただけるよう乙福から参加している委員２名で持ち帰って伝えていただきたい。部会から依頼書等必要であれば準備するので知らせてほしい。